



長くお休みをされていて申し訳ありませんでした。
年末特大号でお送りいたします。よいお年を・・・

◆お品書き◆

【その吉】CODEレター VOL.19

【その式】プロジェクトNEWS

【その参】イラン活動報告レポート

【その四】国連防災世界会議関連ちらし以上

Letter

2004.12.23 VOL.19

CODE海外災害援助市民センター発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>
郵便振替 : 00930-0-330579

市民とNGOの「防災」国際フォーラム 震災10年 神戸宣言

阪神・淡路大震災から10年を前にした12月10、11の両日、神戸市内で「震災10年 市民とNGOの『防災』国際フォーラム」を開催し、「経験ふり返り全国へ、世界へ」をテーマに、厳しかったこの10年をふり返り、これからの10年の展望について語り合った。

フォーラムには自主企画、参加企画あわせて80の語りと討論、集いなどの催しが開かれ、バム地震を経験したイランからのNGOをはじめ、全国から多くの市民が参加し、新しいきずなを結んだ。震災10年を前に日本列島は相次ぐ台風と豪雨災害、そして新潟県中越地震に見舞われた。これらの災害で大きな被害を受けた人たちと阪神・淡路の地は強い連帯で結ばれた。私たちは、同じ苦しみが繰り返されていることに気持ちは揺らいだ。10年間発信し続けてきた私たちの経験と学びが、果たして役立ったのかどうか。検証は10年を超えてさらに継続していくことを話しあった。

私たちは1995年12月に第1回のフォーラムを開催し、被災者と被災地の「暮らし再建」を実現するための行動指針として、「語り出す」「学ぶ」「つながる」「つくる」「決める」の5つのキーワードを切り出した。第2回フォーラムではこれに「育てる」を加え、6つの言葉を心に刻みながら被災者とともにこの10年を歩んできた。震災10年の節目にあたって、この6つのキーワードに沿った行動が、新しい社会を引き寄せることができたかをまず自らに問い直してみたい。

この10年は、被災地のみならず全国的に大きな時代の転換期を迎えていた。分権・自治の進捗、公的介護保険制度と障害者支援費制度の発足、男女共同参画社会への環境整備、NPO法の成立と市民活動の活性化、多文化共生社会の認識の高

まり、持続可能な社会へのアプローチ、経済環境の変化による国や地方自治体の財政悪化など、社会全体の変革が急速に進んだ。私たちの「暮らし再建」はまさに、こうした歴史的な環境変化のなかでの取り組みでもあった。

震災直後のつらい避難所での生活から、仮設住宅、復興住宅への激しい変化に翻弄された被災者に、多くのボランティア活動グループは寄り添い、励まし、自分の言葉で希望や訴えを語るよう働きかけてきた。被災地に広がる「寺子屋」風のさまざまな講座や学習の場は、市民の視点で企画・構成する力を養い、人びとが集う空間となっている。また私たちは、数多くの市民活動グループの広報誌紙や、地域メディアとしてのコミュニティFM放送局の展開に、人と人、人と課題をつなぎ、情報を共有する大事な役割を見出している。国の内で起こる災害へいち早く救援活動を繰り広げるネットワークもまた、危機と困惑の中で積極的に連帯し、支えあい、助けあう大切なつなぎづくりにほかならない。

この10年で、市民活動は提言する力を身につけてきた。提言することによって市民に自らの考えを示し、新しいビジョンをつくり、ともに行動することを呼びかけてきた。この市民活動のうねりを一過性のものに終わらせず、みんなで育て、伸ばしていく努力を続けている。

最も重要な「決める」は、これらキーワードの有効性を図るモノサシでもある。暮らしと地域をより良くしていくために、多様な選択肢の中から進むべき道筋を自らで決めることの重要性を、私たちは学んできた。

私たちはこの6つの言葉を大事にしながら、暮らし再建と新しい市民社会形成への基軸として、次の3点をフォーラムで確認した。

(裏面へ続く)

- (1) もうひとつの生き方を選択する
- (2) 最後の一人まで支える
- (3) 震災文化を伝えていく

私たちが復興10年の中から学びとったこの3つの視座を、今後の行動の里程標として具体的な活動や事業に結びつけていきたい。私たちは、10年間の変化にとどまらず、日々起こる新しい課題と向き合いながら、自省の気持ちを忘れることなく、これから始まる10年へ向けて、志を同じくする人たち、とくに若者や子どもたちとも心をつ結び、力を込めて歩み続けたい。

10年前に、今日のような市民活動の広がりや社会の変化を、私たちはどれほど見通せたのだろうか。そしていま、社会が変わっていき確かな胎動に気づく。目を凝らせば、次の社会の姿が見えてくるのではないか。

2004年12月11日

市民とNGOの「防災」国際フォーラム参加者一同

以上のように、12月11日に神戸宣言が採択され、この宣言は、来年1月に神戸で開催される国連防災世界会議で、日本語、英語の両方で提言される予定です。

市民とNGOの「防災」国際フォーラム開催

12月10,11日に市民とNGOの「防災」国際フォーラムが神戸市勤労会館で開催されました。NGOの代表ら26人で組織委員会を構成し、CODE代表理事の芹田健太郎がフォーラムの実行委員長を務め、村井雅清が事務局次長を務めました。市民の立場から10年間の復興過程を検証し教訓を発信するという目的で、約80のシンポジウムや企画が開催され、約千人が参加しました。

イランからカウンターパートのバタニさん来日

フォーラムには、ちょうど一年前大地震を経験したイランのバムから、カウンターパートであり、子どもたちの支援を行っているNGO、AHKK理事のバタニさんが駆けつけ、国を超えて震災の経験を共有することの大切さを以下のように述べました。「CODEは私たちにKOBEの経験を運んでくれました。そして、私は今日ここに来て、さらにいろいろな経験を知ることができました。この経験をバムへ持ち帰り、さまざまなNGOや市民の人々と共有したいと思います。」このフォーラムの目的は「経験をふり返り全国へ、世界へ」発信することで、バタニさんの来日は、KOBEの震災文化を伝え、共有していく大切な一歩となりました。



記念鼎談

11日にはノンフィクション作家の柳田邦男さん、CODE代表理事であり国際法学者の芹田健太郎、市民まちづくり研究所所長である松本誠さんによる記念鼎談がありました。「たった一人を大切に」というテーマで、災害弱者（高齢者・障害者・外国人等）を守る社会の仕組みを築くことの大切さを話し合いました。



震災文化を次世代へ

11日、8階体育館においては、子どもたちの絵の展示やたっこ太鼓、子ども歌舞伎等、様々なステージプログラムが開催されました。10年を経て、震災経験者、特に仮設住宅に入居していた人々が高齢化した今日、その経験を、世界に伝えるだけではなく、国内の次世代を担う若者へ伝えることの必要性が問われています。



ありがとうございます8/1~11/10

会員・寄付者ご芳名（以下順不同・敬称略）

一般寄付
個人：高橋智子、西尾健治、山田千恵子、向直子（以上兵庫）三島宣彦、成毛典子（東京）菅賢二（広島）佐賀美登利（福島）匿名3名
団体：(株)加納機工（滋賀県）

会 員
◆正会員
個人：
◆賛助会員
個人：阿久沢悦子、北後明美（以上兵庫県）匿名1名
団体：(有)村井新聞店（北海道）神戸YMCA（兵庫県）

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター

〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2丁目1番10号

TEL：078-578-7744 FAX：078-576-3693

e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>

郵便振替：009300-0-330579

CODE プロジェクトニュース

CODE海外災害援助市民センター
 〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10
 Tel: 078-578-7744 Fax: 078-576-3693
 e-mail: info@code-jp.org
 URL: http://www.code-jp.org/

アフガニスタンプロジェクト（2002年7月17日～）

2004年12月7日、首都カブールにてカルザイ大統領の大統領就任式が開催されました。カルザイ氏は初めて直接投票によって選ばれたアフガンの大統領で、今後、麻薬の根絶や軍閥の武装解除などの課題に取り組むこととなります。しかし、以前として治安が安定している状況とは言えず、12月に入ってから地方ではアフガニスタン政府軍とタリバン兵士らによる戦闘が続いています。

CODEもこのような状況のため現地へのスタッフ派遣を見合わせていますが、現地カウンターパートからはぶどうプロジェクトの様子が届いています。現地からの様子を読む限り、シャモリ平原のミールバチャコットに住む人々は更に増え、支援を必要としている人々がまだまだいるということがわかります。しかし、このぶどう基金を彼らの中でいろいろな方法を試しながら、努力している姿がうかがえます。

<現地からのメールより>

昨日、ミールバチャコットのシューラ（現地評議会）と話し合いを持ちました。そして昨年度貸し出したお金を一度に返済することは不可能と判断し、借りたお金の半分の額に2%の利子を付けて返すことからはじめようということになりました。この方法なら、次に借りたい人にも貸し出すことができるからです。

そしてこの方法によって、179,250 アフガニー（約37万円）がぶどう基金へ返済されました。その基金は新たに80家族のぶどう基金を必要としている人々に手渡されました。そのリストができたらまた送ります。

また以前に銀行振込で送ってもらったカレーズの修復資金ですが、カレーズ修復は冬の間はできないので、春を待ってから行います。

どうぞ神戸事務所の方々、そして神戸の方々によるしくお伝えください。

- カウンターパート ルトゥフ・ラハマン

フィリピン連続台風被害について

日本でも今年には多くの台風に見舞われ、多大な被害を出すことになりました。あまりニュースにはなっていませんが、アジア各地でも台風によって大きな被害が出ています。

フィリピンでは11月下旬から3つの台風と1つの熱帯低気圧の猛威によって多大な被害が出ている状況です。11月29日より12月1日にかけて、台風25号「ウンディン」と26号「バイオレタ」がビコール地方を直撃、熱帯性低気圧「ウイニー」が連続して上陸し、さらに12月2日には台風27号「ヨヨン」がルソン島を襲いました。

【現状報告】

OCHA（国連人道問題調整事務所現状報告レポート7より）

国家災害調整協議会（NDCC）より出された最新被害状況は以下の通り。

- *死者: 1,060
- * 負傷者: 1,023
- * 行方不明者: 559
- * 避難者: 880,000
- * 家屋被害: 134,000
- *全壊家屋: 38,000

現地では政府、国連、赤十字/赤新月社、NGO が活動を緊急支援を行っている模様です。

日本の取り組み

被災地では衛生状況の悪化により、感染症やマラリア等の発生が懸念されています。フィリピン共和国から緊急援助物資の要請を受け、医療支援を目的とする緊急援助物資（浄水器、抗マラリア剤など）約 840 万円相当の供与を決定しました。

また、これまでに約 2,800 万円の援助物資（毛布、テント、発電機、浄水器、ポリタンク等）および約 35 万ドルの緊急無償資金協力を実施しています。（国際協力機構 HP より）

神戸の取り組み

【神戸 YMCA 支援へ】

神戸 YMCA は現地に滞在する YMCA ボランティアからのメールを受けて、今後、中長期的な支援を検討中。フィリピン YMCA がリリーフ・オペレーションを企画しはじめているそうです。具体的な支援内容が決まり次第、活動を開始する予定。

【JPcom (Japan Philippines Community & Communication) が現地での緊急支援を開始】

フィリピンでの連続台風上陸では JPcom のプロジェクトエリアも大きな被害を被りました。4 月に開設したコミュニティファームは約 1 週間の間、水に浸り、床面の高さ 2 m の養豚場にまで洪水が押し寄せました。JPcom では、ヌエバエシア州サン・レオナルドのマグバパラヤオ村とタブアティング村を中心に緊急支援を行うことになりました。

CODE としては両者の活動を今後も情報提供をしていきながら、後方支援をしていきます。

募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて通信欄に「イラン地震支援」「アフガニスタン支援」とそれぞれ明記してください。なお募金全体の15%を事務局運営・管理費に充当させていただきます。

口座番号: 00930 - 0 - 330579

加入者名: CODE

CODEの活動は、様々な方のご支援に支えられて行われています。すべての皆様にご報告を直接させて頂きたいのですが、物理的にも財政的にも制限があり、ホームページやメーリングリストなどを通して広くご報告させていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。

当センターのホームページ <<http://www.code-jp.org>> にも同様のものをアップしております。

(以上編集：事務局)